

ソフトウェア・メンテナンス 研究会 2012年度 全体合宿

1

開催要領

日時:2012年11月30日(金) 13:00 受付開始
2012年12月1日(土) 16:00 解散予定

場所:葉山研修センター

プログラム:初日

- 13:30- 開会宣言:代表幹事 岸田孝一 様
- 13:35- 会員拡大策:全員での討議
- 16:00- 基調講演:ソフトウェア保守に影響する要因の分析
東洋大学 角田 雅照 氏
- 18:00- 情報交換会 なじま

2日目

- 9:00- グループでの計画立案
- 12:30- 昼食 菊水亭
- 13:00- グループでの計画立案
- 15:00- 各グループ発表

2



昼食のメニュー決め

スープ、サラダ、パスタのセット

パスタは、どれにしますか？

- ペペロンチーノ
- トマトバジリコ
- カルボナーラ
- メンタイコ
- ナポリタン
- ボンゴレ
- 地だこ

4

参加者

- A: 塩谷 和範、古石 ゆみ、沼田 恵助、上野 則男、中山 優紀、田中 一夫、福島 茂雄
- B: 押野 智樹、岸田 孝一、江尻 武志、諸岡 隆司、小林 允、松尾 好博、石川 雅彦、川上 康史、峰村 圭介、方 学芸、木部 俊之
- C: 伊藤 順一、井瀬 英晶、岡田 浩、丸山 陽一、佐井 由美子
- D: 弘中 茂樹、高橋 宏志、高橋 芳広、松本 道春、増井 和也、大島 道夫、長谷川 亨、奈良 隆正、馬場 辰男、野口 大輔、鈴木 勝彦
- 未定: 三輪 東
- オブザーバ: 渡邊 将栄、臼杵 誠
- 基調講演者: 角田 雅照

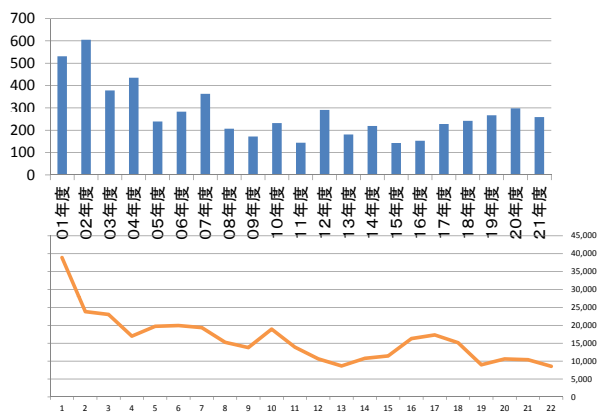
5

初日

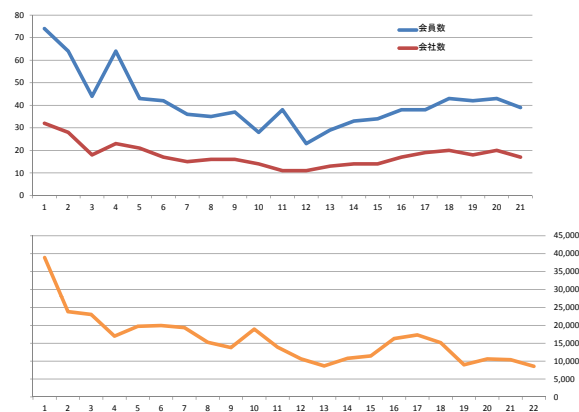
会員拡大策

6

トレンド(報告書頁数vs株価)



トレンド(研究員数vs株価)



研究員数

	年	研究員数	会社数		年	研究員数	会社数
1	1990	74	32	13	2003	29	13
2	1991	64	28	14	2004	33	14
3	1992	44	18	15	2005	34	14
4	1994	64	23	16	2006	38	17
5	1995	43	21	17	2007	38	19
6	1996	42	17	18	2008	43	20
7	1997	36	15	19	2009	42	18
8	1998	35	16	20	2010	43	20
9	1999	37	16	21	2011	39	17
10	2000	28	14	22	2012		
11	2001	38	11				
12	2002	23	11				

9

研究会のテーマ(1)

- 01年度(1990年度)
 要員に関する問題 ドキュメンに関する問題
 保守プロセスモデル 保守工程における保守技
 保守性を考慮した開発のあり
- 02年度(1991年度)
 要員問題 ドキュメント問題
 作業管理問題 保守技術問題
 開発方法 リポトリ情報
- 03年度(1992年度)
 保守要員管理に関する問題 統合化CASEツールの調査
 リバースツールの調査 ダウンサイジングの保守
 保守における品質管理 保守情報のリポトリ化

研究会のテーマ(2)

- 03—04年度(1993—4年度)
 保守情報のリポトリ化 保守における品質管理
 保守の料金体系とシステムの原価
 パッケージの有効利用と保守ツール
 保守技術者と高度情報化人材育成カリキュラム
- 05年度(1995年度)
 ソフトウェア保守技術者育成テキスト
 メタ情報リポトリと支援環境 保守の生産管理開発方法
- 06年度(1996年度)・・・合宿地:釧路、YIS
 2000年問題対応ガイド オープンシステムの保守
 ソフトウェア保守のロジスティクス 保守ツールの評価

研究会のテーマ(3)

- 07年度(1997年度)・・・合宿地:高知
 オープンシステムの保守 利用者支援の改善
 SMSGの考える保守とは 保守ツールの評価
 2000年対応におけるテストの効率
- 08年度(1998年度)・・・合宿地:酒田、JFITS
 オープンシステムの保守(障害個所の特定方法)
 保守のペーパーレス環境
 保守作業改善の基盤技術調査(情報共有における保守作業の改善)
 SMSGの考える保守とは
- 09年度(1999年度)・・・合宿地:小浜
 オープンシステムの保守～顧客満足度向上策～
 保守作業改善の基盤技術調査—保守のプロセス改善—
 保守のペーパーレス環境—テストドキュメントの電子化—
 SMSGの考える保守とは

研究会のテーマ(4)

10年度(2000年度)・・・合宿地:鹿児島

オープンシステムの保守～ビジネスアプリケーションを**オープンソース**する事で保守が楽になるか～

保守作業改善の基盤技術調査～保守作業改善の為の技術動向、導入のポイント

ASPの保守を考える～**Webシステム保守**の考察と保守担当者満足度向上策～

SMSGの考える保守とは

11年度(2001年度)・・・合宿地:青森

保守作業改善の基盤技術調査～保守の見積りと教育の現状～

保守の**PMとKM**を考える～保守ナレッジ共有化のためのeメール再利用について～

SMSGの考える保守とは

研究会のテーマ(5)

12年度(2002年度)・・・合宿地:下関

オープンシステムの保守～XPにて保守が楽になるか～

保守作業改善の基盤技術調査～保守の見積りと教育の現状～

保守のアウトソーシングを考える～保守業務におけるドキュメント整備の省力化～

SMSGの考える保守とは

13年度(2003年度)・・・合宿地:長崎

オープンシステムの保守～**保守プロセスとメトリクス**～

保守作業改善の基盤技術調査～保守の見積りと教育の現状～

保守のアウトソーシングを考える～分かりやすい保守サービスの報告書とは～

SMSGの考える保守とは

研究会のテーマ(6)

14年度(2004年度)・・・合宿地:盛岡

オープンシステムの保守～ソフトウェア保守での作業プロセスの明確化と改善～

保守作業改善の基盤技術調査～GAMMA システムに関する調査～

保守のアウトソーシングを考える～保守の戦略的コストマネジメント～

SMSGの考える保守とは

15年度(2005年度)・・・合宿地:徳島、CSKシステムズ

オープンシステムの保守～保守しやすいソフトウェア～

保守作業改善の基盤技術調査～**分散アプリケーションの進化**およびメンテナンス支援に関する研究～

保守のアウトソーシングを考える～保守要員のローテーション～

SMSGの考える保守とは

研究会のテーマ(7)

16年度(2006年度)・・・合宿地:別府

保守用ドキュメント・問題の抽出とアプローチ～問題把握および修正分析フェーズの検討を通して～

保守作業改善の基盤技術調査～分散アプリケーションの進化およびメンテナンス支援に関する研究～

保守のアウトソーシングを考える～保守スキル標準化による要員のローテーションの取り組み～

SMSGの考える保守とは

17年度(2007年度)・・・合宿地:松山

保守用ドキュメントとは～隠れた保守ドキュメントの発掘に向けて～

分散アプリケーションの進化およびメンテナンス支援に関する研究

保守のアウトソーシングを考える～内部統制と要員のローテーションの活性化～

SMSGの考える保守とは

研究会のテーマ(8)

18年度(2008年度)・・・合宿地:姫路、IKI

保守用ドキュメントとは～作業局面別 保守ドキュメントの考察～

分散アプリケーションの進化およびメンテナンス支援に関する研究」

保守のアウトソーシングを考える～**SLA**を支えるSE像～

SERCの考える保守

19年度(2009年度)・・・合宿地:清水港

最低限必要な保守用ドキュメントを求め

保守作業改善の基盤技術調査 **保守のサービスレベル**向上策

SERCの考える保守

20年度(2010年度)・・・合宿地:桐生

現場の懊悩(オウノウ)をみんなのOh,yes!!に

保守作業改善の基盤技術調査

障害を発生させない、被害を拡大させない対策とは

SERCの考える保守

研究会のテーマ(9)

21年度(2011年度)・・・合宿地:三島

MORE REALLY, MORE USEFULLY!～ソフトウェア保守ノウハウの改編

保守作業改善の基盤技術調査

10年後のソフトウェア保守を考える

SERCの考える保守とは

22年度(2012年度)・・・合宿地:葉山

増井さん案

19

地道な会員拡大推進活動しかない？

- 一般、学生、シニア、ネット会員等の個人会員積極募集（法人会員増は非常に厳しい社会情勢のため）
- 法人会員・個人会員の年会費値下げ
例：法人＜研究員3人までに変更＞5万円、一般個人2万円、学生・シニア1万円、ネット会員＜研究員参加不可、報告書なし、フォーラム割引あり、懇親会自費＞2千円
- 現場の具体的問題にフォーカスしたフォーラムの積極開催（見積、モチベーション、エスカレーション方法、体制、作業環境、成果アピール等）
- ケーススタディ（OS/MWのバージョンアップ、制度法律の改正、緊急障害、ユーザクレーム、潜在不具合の内部発見、保守契約なしのスポット対応等）トレーニングセミナー開催
- SERC論説委員持ち回りによるSERCエディトリアル定期発行

20

田中案

今期の収支 予測

収入	895,000	支出	810,000
会費		KickOff合宿費	300,000
法人 600,000(4社)		グループ合宿費	300,000
(SRA, HISOL, IKI, TSOL)		SMS会場費	100,000
個人 150,000(3人)		SMS懇親会費(20人)	100,000
(馬場、諸岡、押野)		報告書作成費	10,000
シルバー 100,000(5人)			
(長谷川、弘中、奈良、上野、松尾)			
個人研究員 45,000(10人)			
(伊藤、江尻、大島、小林、塩谷、福島、丸山、峰村、高橋)			

会の状況

- 今期も、減少
法人 1社減(バイトル)、個人 1人(田中創)、個人研究員 1人(玄間)

改革案

会員種別の変更
法人：150,000 1社5人の研究員
全体合宿・グループ合宿 費用不要
個人：50,000 全体合宿・グループ合宿 費用不要
シルバー：20,000 個人で60歳以上
個人研究員：5,000 全体合宿・グループ合宿費用は自己負担
↓
賛助会員：150,000 1社10人の研究員
メリットを何？ 過去報告書見れる、従来の会社だけなら従来通りで良い、全体合宿費用は出す、キックオフSymptoかSMSを数人の無料枠、
合宿費は会社からチェック入る？
気軽に参加できる仕組み：グループ検討の場合オプザーバ参加(無料)
全体合宿・グループ合宿 費用は自己負担
個人研究員：5,000・・・自分への投資、1万にして補助を出す
色んなところへの発信、HPでの月間報告、魅力的なコンテンツ、現場にFeedBackできるか課題、会社に応えられるネタ

改革案(成果)

色んなところへの発信、HPでの月間報告、魅力的なコンテンツ、現場にFeedbackできるか課題、会社に応えられるネタ
成果も大事だが、プロセスも大事・・・でも、文字にするのはシンドイ
成果をアピールしても会社のメリットにならないと上の人に認めてもらえない
社内SNSでも有用な情報が流れない
組織を作らないとアピールできない？
報告書:会社では？ Ans:ふーん 権威付け必要・・・例 学会への投稿
SEAとかJASPICと違うのは、現場の人の役に立つ！？
ニュースレターじゃ駄目？
品ぞろえ:人脈作りに役立つ
法人拡大は難しいので、個人拡大にしよう！
個人研究員だと会社の勤務で活動できない？！ :4人
知名度:
フォーラムで、人を集める

改革案(フォーラム)

フォーラムで、人を集めるには？
実用的なテーマでないと集客は無理
開催した内容を公開する・・・次回参加するかもしれない
今抱えている課題だったら、集まる
発信者を増やす
各グループにHP更新権限を与える by方
過去の報告書を見れるようにする・・・会員限り
Print可・C&P可

改革案での収支 予測

収入 500,000		支出 210,000	
会費		KickOff合宿費	0
賛助 400,000(4社)		グループ合宿費	0
(SRA, HISOL, IKI, TSOL)		SMS会場費	100,000
個人研究員 100,000(20人)		SMS懇親会費(20人)	100,000
		報告書作成費	10,000

上記のように、SMSのみの運営になれば、十分、運営可能
今年度、詳細を詰め、次年度より実施し